

2025 年度

文学部 総合型選抜Ⅱ期

(自己推薦型)

【小論文】

※同日に実施した学校推薦型選抜と共通問題

60 分 100 点

小論文問題（百点）

次に引用するのは三浦しをんの小説『舟を編む』（二〇一一年、光文社）の一節である。『大渡海』^{だいつかい}という辞書編集部に配属されて一年八ヶ月ほど経った岸辺みどりの思いが、次のように語られる。

辞書づくりに取り組み、言葉と本気で向きあうようになって、私は少し変わった気がする。岸辺はそう思った。言葉の持つ力。傷つけるためではなく、だれかを守り、だれかに伝え、だれかとつながりあうための力に自覚的になってから、自分の心を探り、周囲のひとの気持ちや考えを注意深く汲み取ろうとするようになった。

岸辺は『大渡海』編纂を通し、言葉という新しい武器を、真実の意味で手に入れようとしているところだった。

引用した文章を参考にして、あなたが「本気で向きあう」ことで変化を自覚した経験について、六〇〇字以内で具体的に述べなさい。